

平成24年11月自治防災訓練が実施されました。

構自治会役員 組長さん等各種団体の皆さんによる。いざと言う時に備え自主訓練が実施されました。参加人員は約70名

飾磨消防団津田分団による指導の基いざと言う時は地域の皆さんが協力し避難や救難助け合いを確認しました



まずは消火栓の使用説明

ボックス内の器具について ホース 50mm 筒先これは水を出すときの先端につけます
そして立ち上がり消火栓を開けこの立ち上りを差し込みホースをつなぎます



まずは消防団による実演です



地域の皆さんによる放水訓練



水消火器の訓練これは消火器に空気と水が入っています



水害に備えての土嚢詰めです。10年以上になりますが構えでも雷雨により船場川や用水路があふれ思案橋ではマンホールの蓋が飛び上がったことがあります。この時は2500個の土嚢を作り船場川の土手に積みました。





阪神淡路の大震災東北の大震災いつ私たちの身に降りかかるかわかりませんが、しかし地域が一致団結し日ごろから体験し、いざと言う時に普段から備える事が大事です。

津田消防団員は分団長を含め40名です。構の世帯数は約1400です。津田校区では約4000世帯を超えます。緊急時は組長さんをリーダーとしとりあえず逃げる、そして其の後は協力仕合確認をし不明者があれば救助する。又はレスキュー等に連絡する。

小地域20名～40名程度に数名のリーダーが必要になります。

このような訓練を基に地域の絆を強め備える事が大事と思います。

記者 塚本